

平成28年度上半期消費者動向調査

# 食の志向等に関する調査結果

- 1 食に関する志向
- 2 国産品かどうかを気にかけるか
- 3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度
- 4 食生活の実態(特別設問①)
- 5 調理の実態(特別設問②)

## 調査要領

**調査時期** 平成28年7月1日～7月12日  
**調査方法** インターネット調査  
全国の20歳代～70歳代の男女2,000人(男女各1,000人)  
※インターネット調査であるため、回答者はインターネット利用者に限られる。

<調査に関するお問い合わせ>

日本政策金融公庫 農林水産事業  
情報企画部 TEL 03-3270-5585

詳しい調査結果は、当公庫ホームページ (<http://www.jfc.go.jp/>) に掲載しています。  
トップページから「刊行物・各種調査結果」→「農林水産事業 調査結果」→「消費者動向等調査」の順でご覧ください。

注：図表において、四捨五入の関係上、合計が一致しない場合があります。

平成28年9月



日本政策金融公庫  
農林水産事業

# 1 食に関する志向

## 食の志向、「健康志向」が12半期連続で最多回答

図1 現在の食の志向（上位）の推移（2つまで回答）

現在の食の志向は、「健康」が41.6%となり、12半期連続で最多回答。次いで「経済性」、「簡便化」の順。

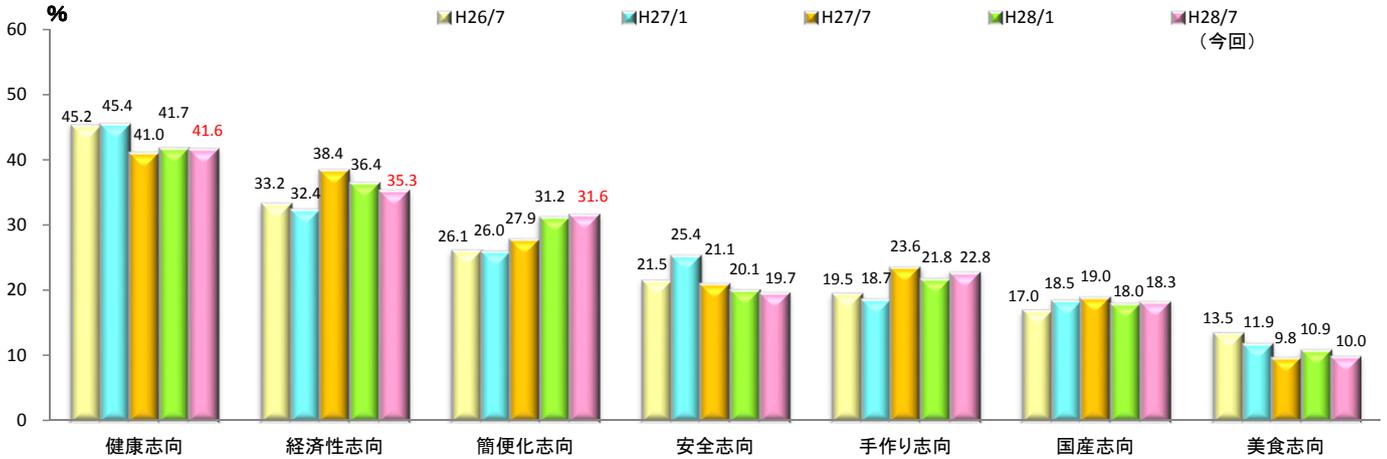


図2 年代別 現在の食の志向（上位）（2つまで回答）/平成28年7月調査

食の志向は、一般的に「健康」は高齢世代、「経済性」「簡便化」は若齢世代に集中する特徴。しかしながら、今回は、20代の「健康」が30代より高く、「経済性」「簡便化」は低くなるという結果。

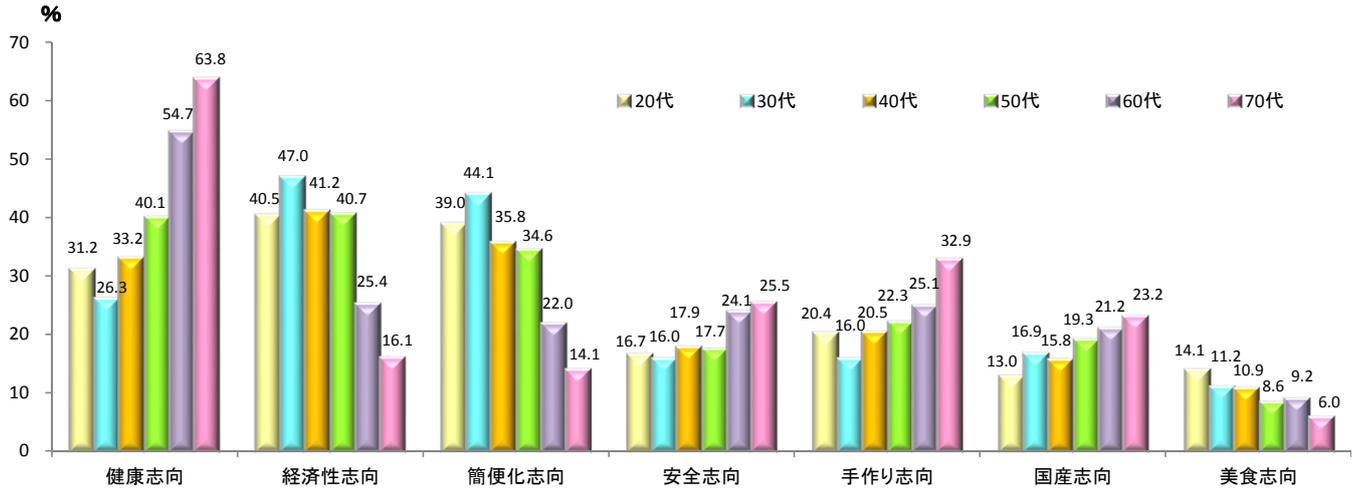
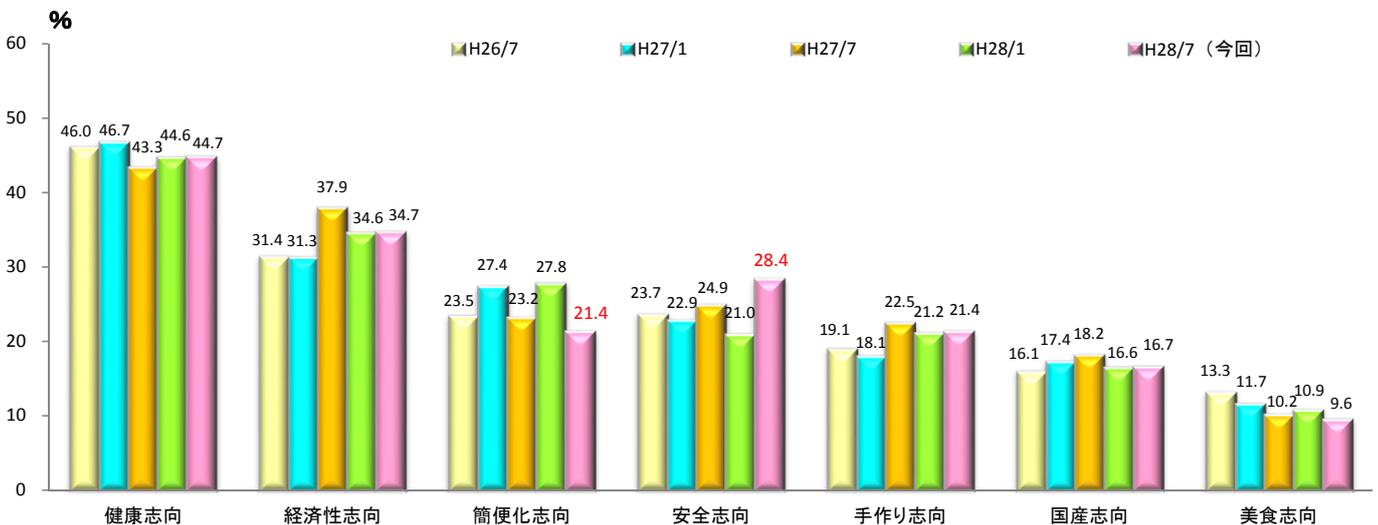


図3 今後の食の志向（上位）の推移（2つまで回答）

「健康」が44.7%で現在の志向と同様最多回答。「安全」が28.4%で3番目となり、「簡便化」が低下。今後、「簡便化」から「安全」へと食の志向がシフトしていく可能性。



## 2 国産品かどうかを気にかけるか

### 国産食品「安全」、「おいしい」、「見た目がいい」

図4 食料品を購入するとき/外食するとき国産品かどうかを気にかけるか

食料品を購入するとき国産かどうか「気にかける」割合は76.6%、外食するときは、38.1%。前回調査から大きな変化はみられず、食料品を購入するときのほうが「気にかける」割合が高い。

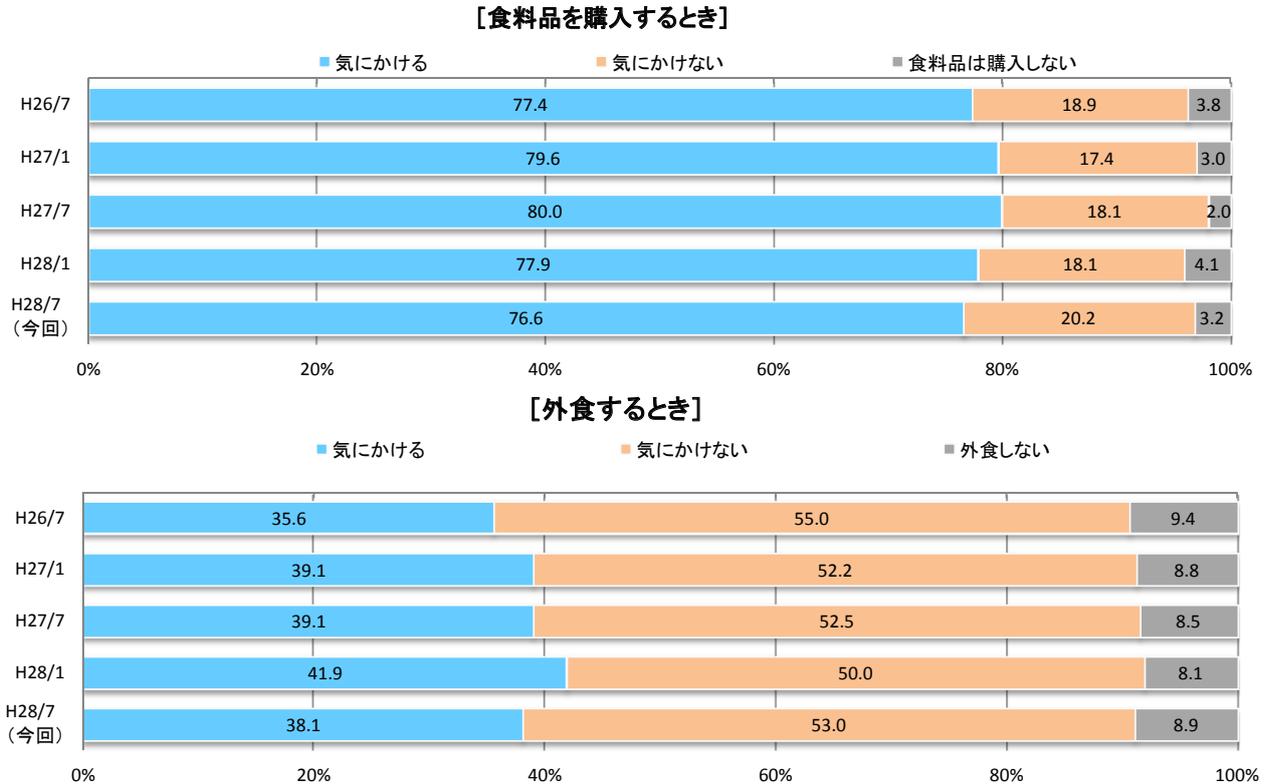
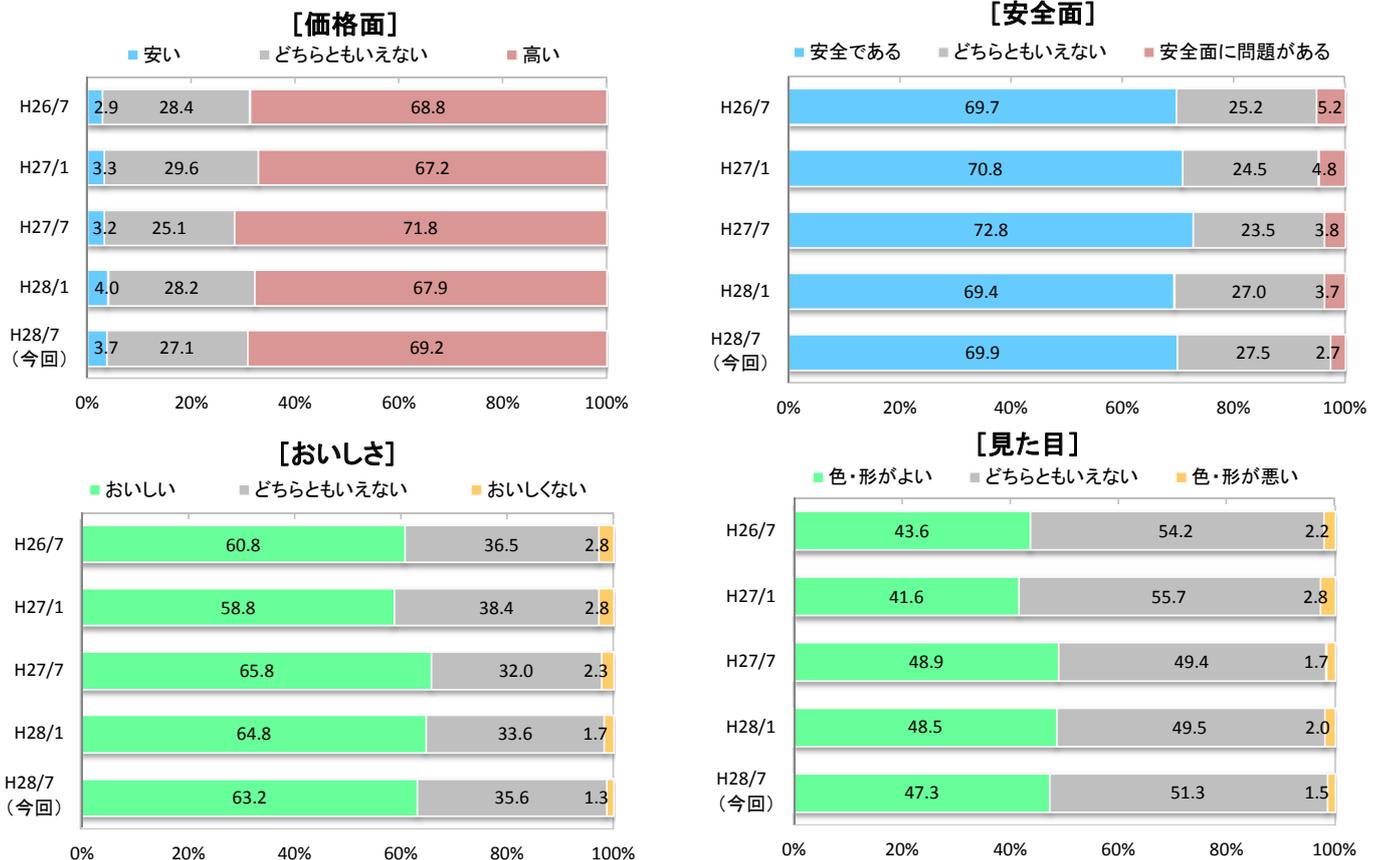


図5 国産食品に対するイメージ（価格、安全、おいしさ、見た目）

国産食品は、輸入食品と比べ価格が「高い」というイメージを持たれているものの、「安全である」（69.9%）、「おいしい」（63.2%）、「色・形がよい」（47.3%）との評価。

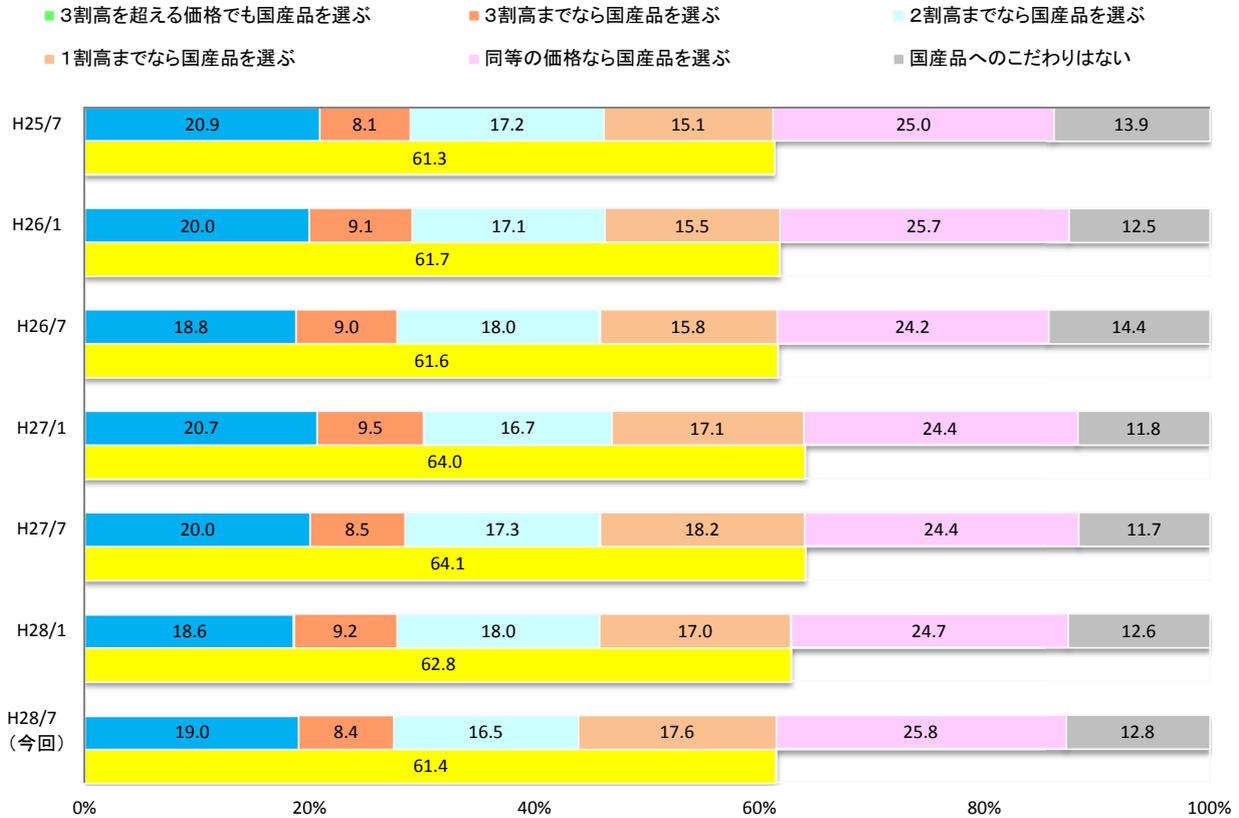


### 3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度

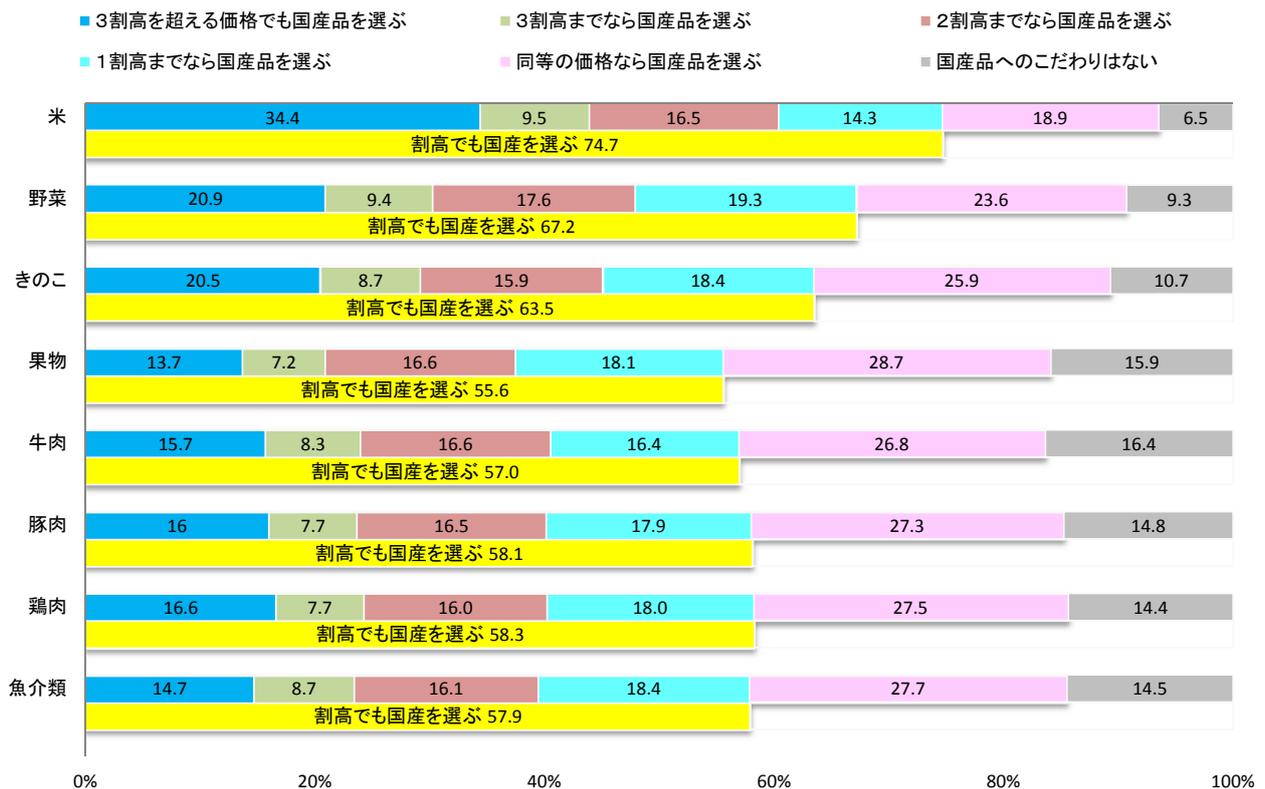
#### 「割高でも国産」6割超 消費者は国産支持の傾向

図6 国産食品の輸入食品に対する価格許容度の推移

「割高でも国産を選ぶ」割合は、依然6割を超える高い割合（61.4%）。  
 図5の結果も踏まえて考えると、消費者は国産食品に安全で高品質なイメージをもっており、輸入食品と比べて割高にはなるものの、出来るだけ「国産食品を選びたい」という意識・意向が高いことがうかがえる。



#### （参考）品目別の国産食品の輸入食品に対する価格許容度／平成28年7月調査



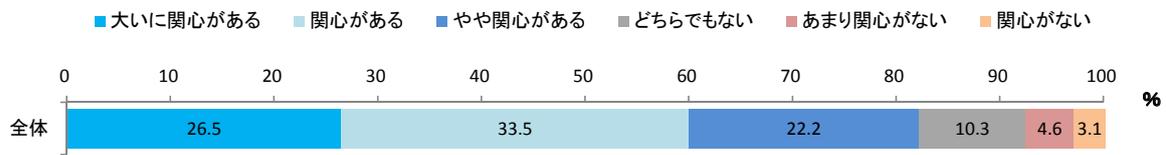
## 4 食生活の実態(特別設問①)

### 高齢世代の朝食は「パン」が多く、20代は「ごはん」が多い

図7 食べることへの関心度／食べることへ「関心がある」とした理由

「食べること」への関心は、約8割にのぼり、消費者の関心度は高い。  
「関心がある」理由としては、「おいしいものを食べること」が56.9%。

【食べることへの関心度】



【「関心がある」とした理由】

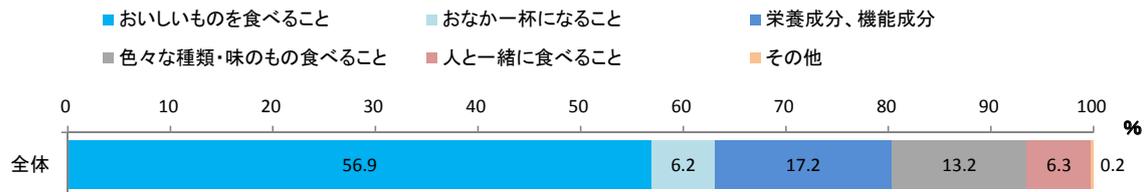
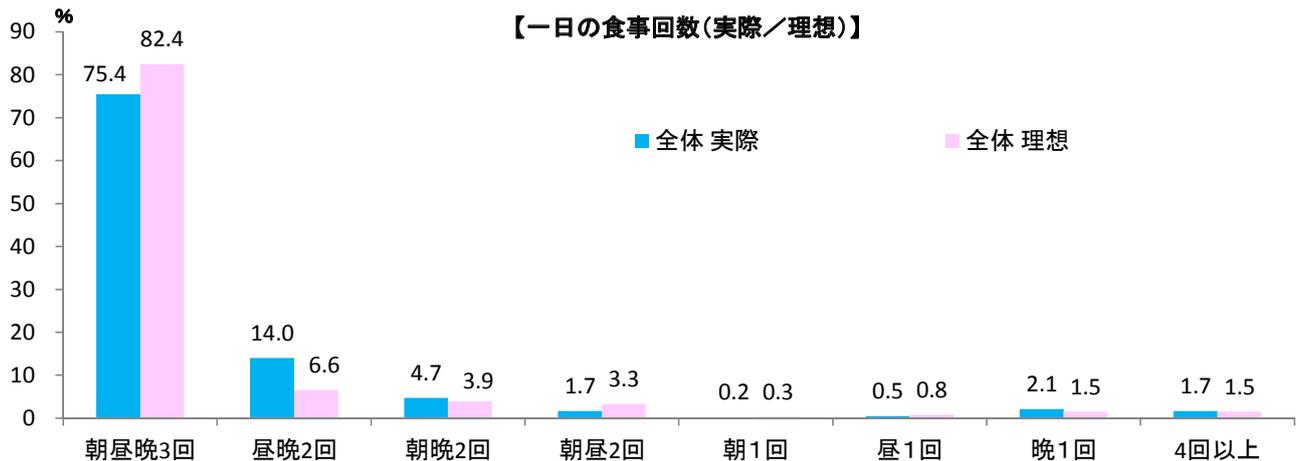


図8 一日の食事回数(実際/理想)

一日の食事回数は、75.4%が「朝昼晩3回」、14.0%が「昼晩2回」。理想の回数では、「朝昼晩3回」82.4%となっており、理想と実際の間、ある程度の乖離が存在。  
年代別では、20代の「昼晩2回」は、23.8%となり、世代間で最も朝食の欠食率が高いという結果。

【一日の食事回数(実際/理想)】



【年代別 一日の食事回数(「朝昼晩3回」「昼晩2回」(実際/理想))】

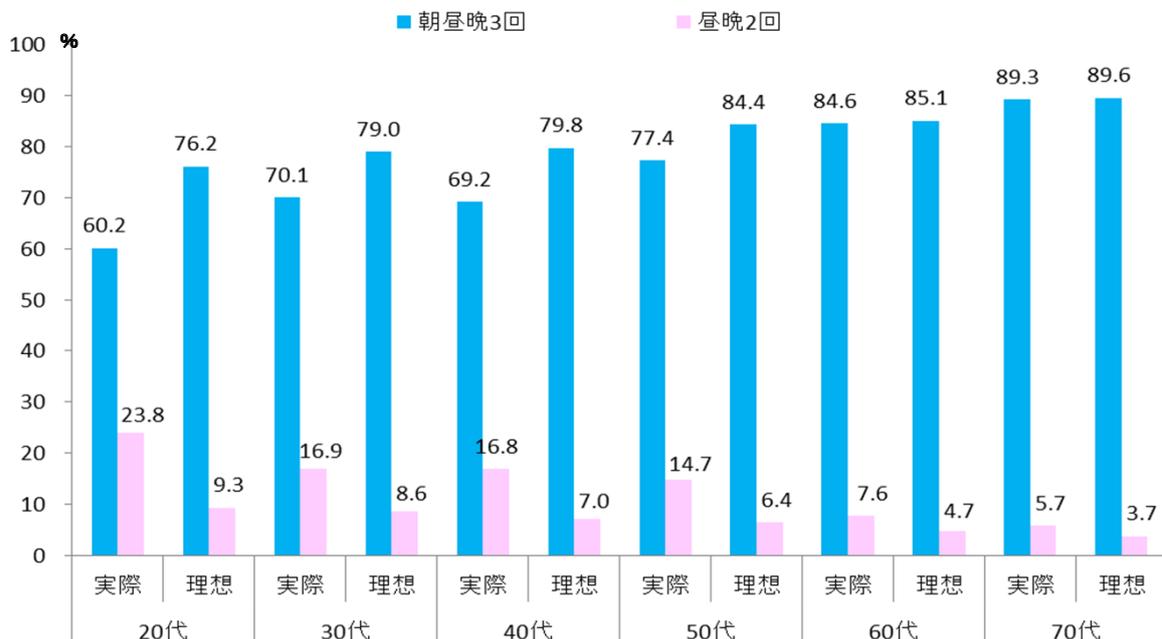


図9 普段の朝食で摂っているもの（主食／主食・主菜・副菜以外その他）

普段の朝食について、主食では、「ごはん」が62.2%、「パン」が58.1%で、この2品目が中心。20代では「ごはん」が「パン」を大きく上回る一方、60代では「パン」の方が高く、70代では拮抗。その他のものでは、60代、70代で「乳製品」「牛乳」が高い割合。

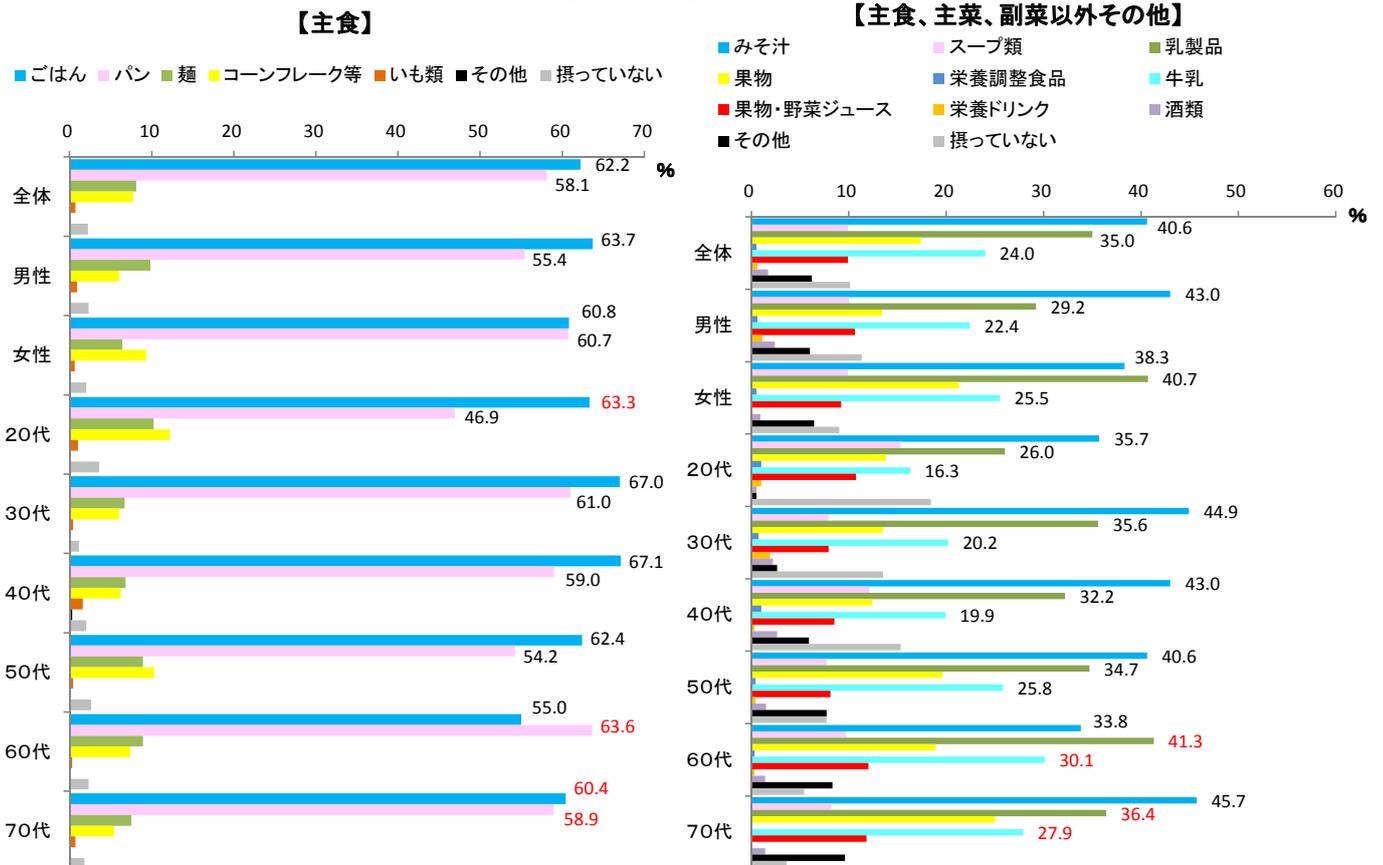


図10 普段の昼食で摂っているもの（主食／主菜）

昼食の主食では、「ごはん」が72.2%、「麺」が45.1%で朝食と比べ割合が高まる結果。主菜では、「魚介類」が30.0%、「豚肉」が26.9%の順。年代別では、20代・30代では、「鶏肉」「豚肉」の方が「魚介類」よりも高い割合となる一方、60代・70代では、「魚介類」が他の品目よりも顕著に高い割合。

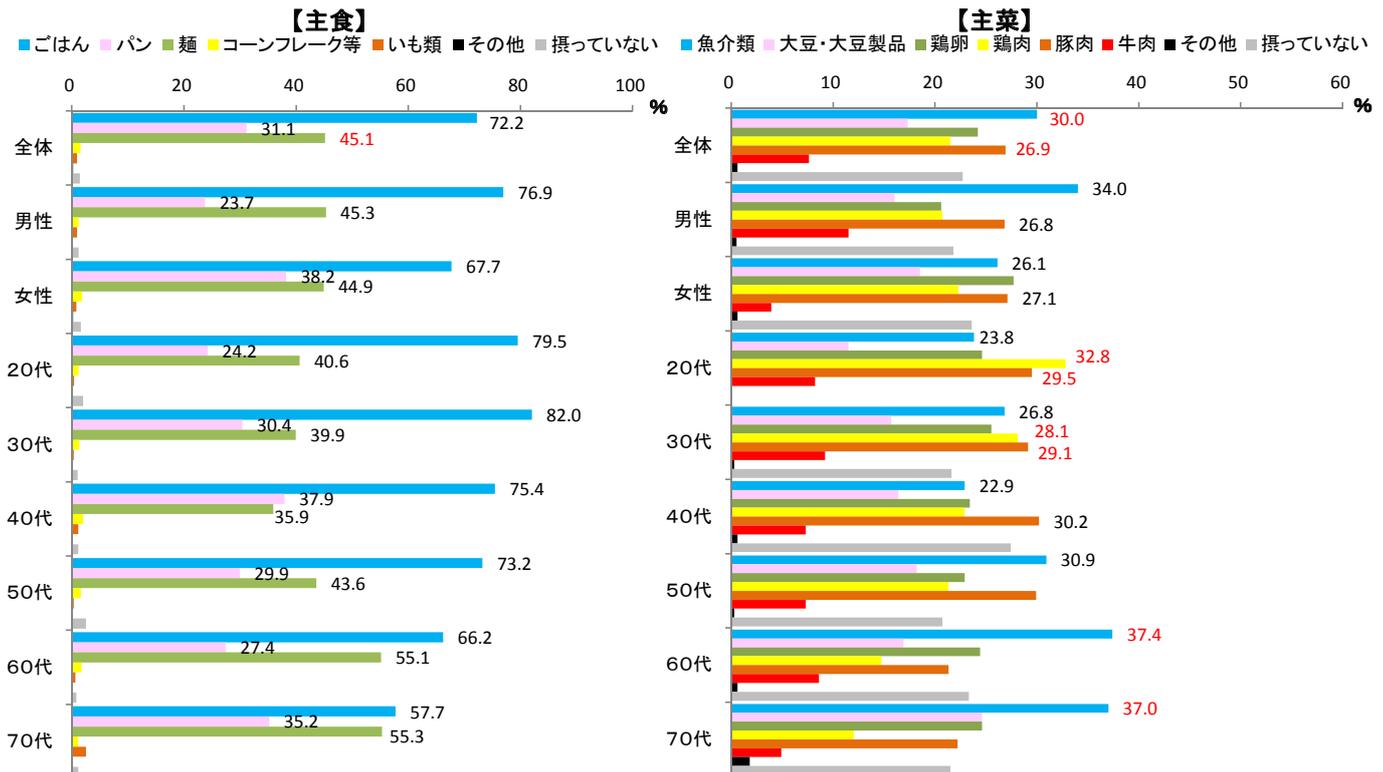


図11 普段の夕食で摂っているもの（主菜／主食・主菜・副菜以外その他）

夕食の主菜は、「魚介類」が59.3%、次いで「豚肉」44.2%。60代・70代のほか、50代でも「魚介類」の高さが顕著。

その他のものでは、朝食・昼食ではほとんど無かった「酒類」が増加し、高齢世代ほど高くなる傾向。

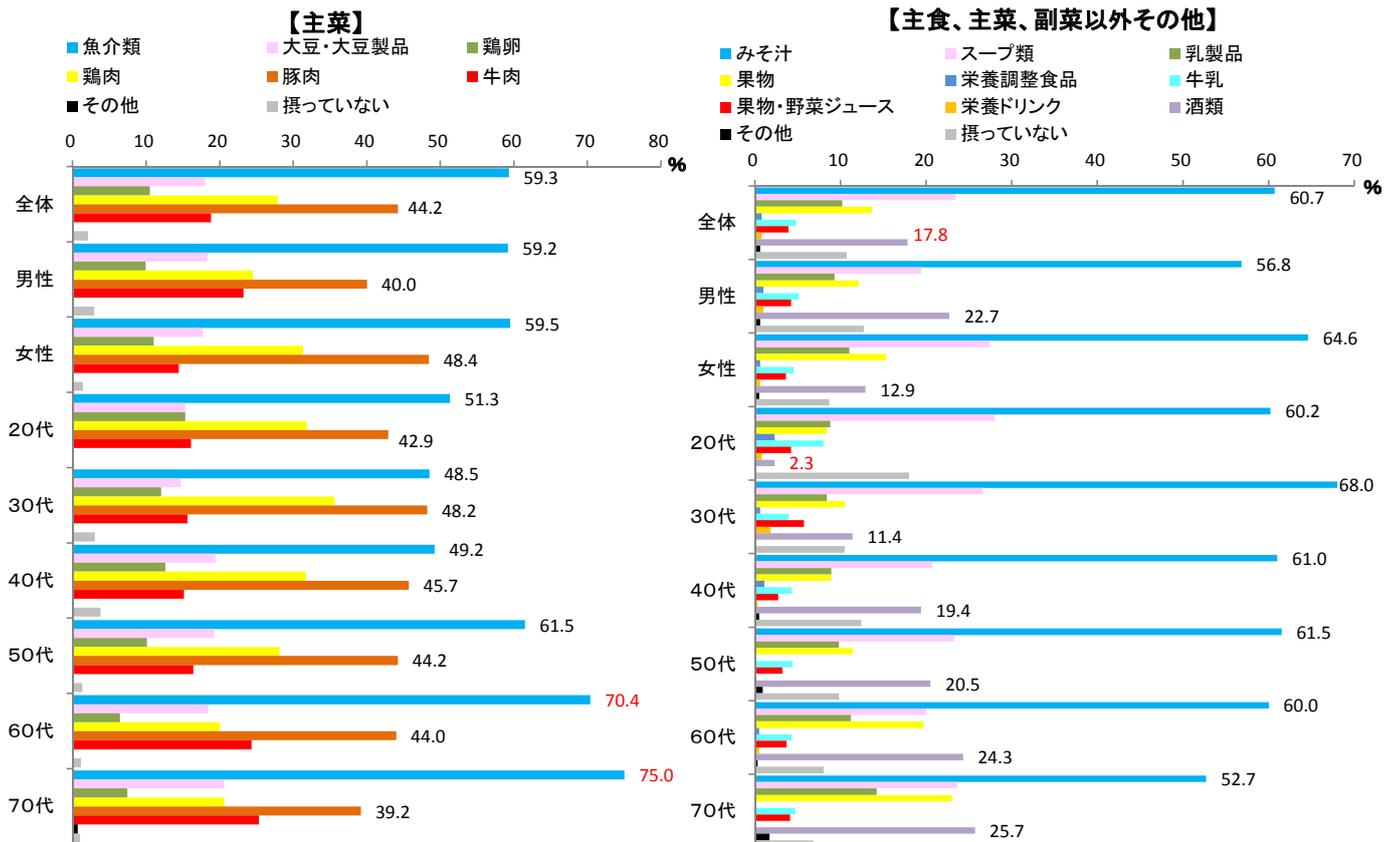
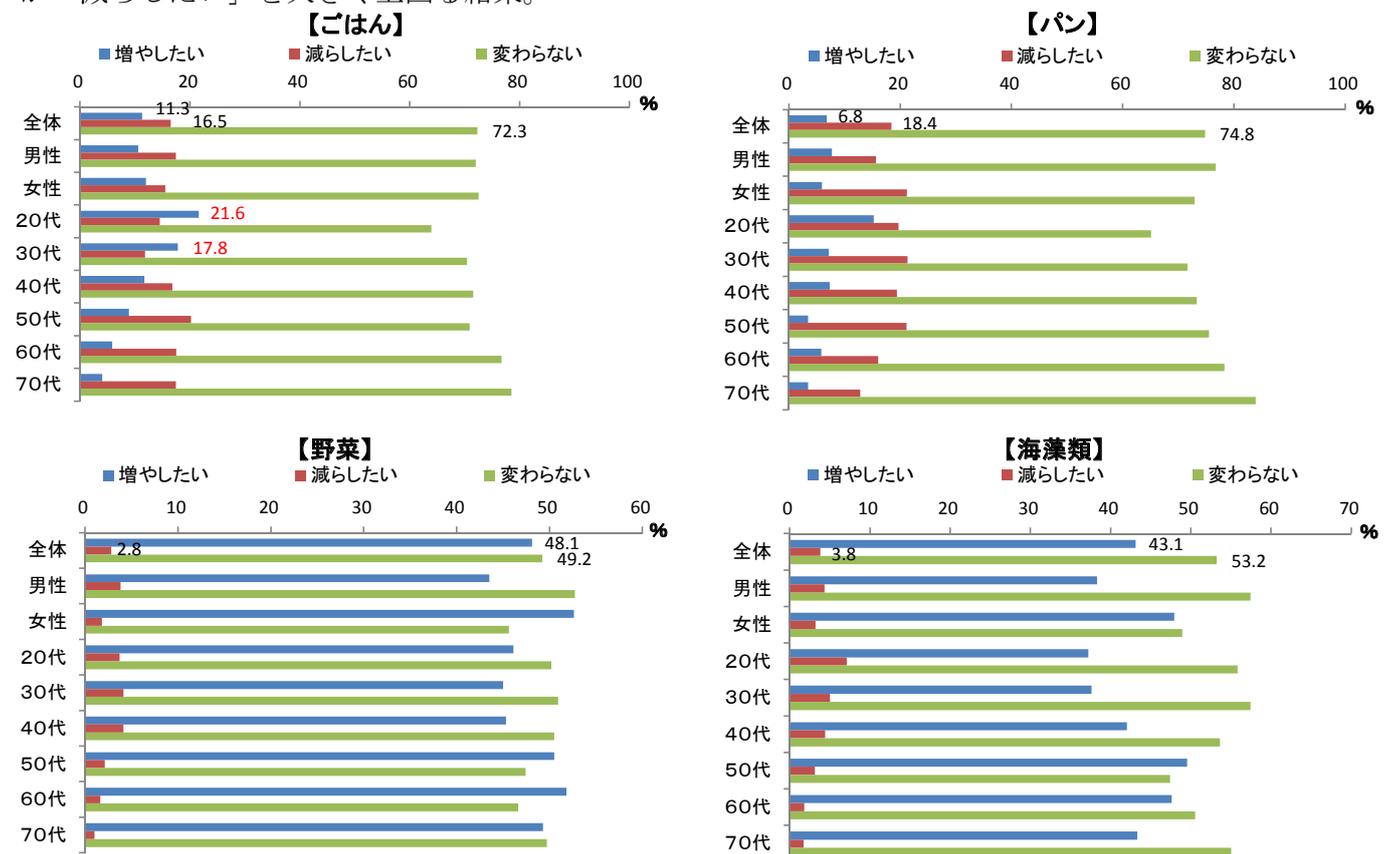


図12 今後、摂取量をどうしたいか（ごはん／パン／野菜／海藻類）

今後の摂取量について、主食の多くは「変わらない」とするも、「ごはん」は、20代・30代で「増やしたい」が「減らしたい」を上回る結果。副菜でも「変わらない」が多いものの、「増やしたい」の割合が「減らしたい」を大きく上回る結果。



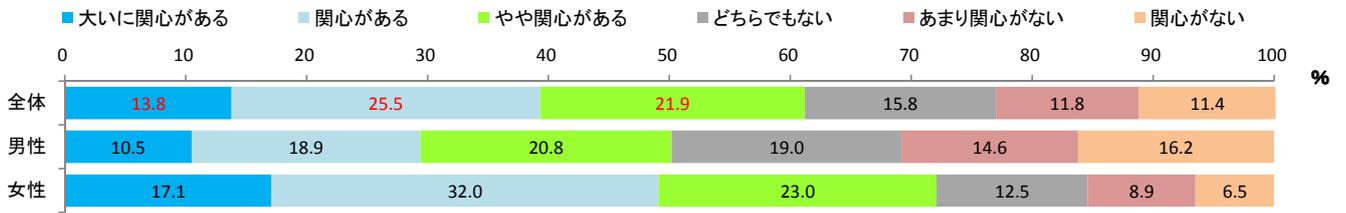
## 5 調理の実態(特別設問②)

### 家庭内での調理技術の継承3割以下、本やネットが中心

図13 「調理すること」への関心度／調理の頻度

「調理すること」について「関心がある」が全体で約6割。男性でも約5割という結果。しかし、調理の頻度では、男性は「ほぼ毎日」が約2割に留まる。

【「調理すること」への関心度】



【調理の頻度】

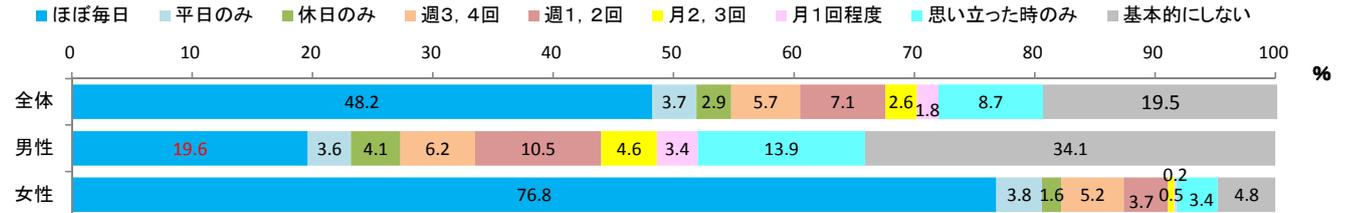
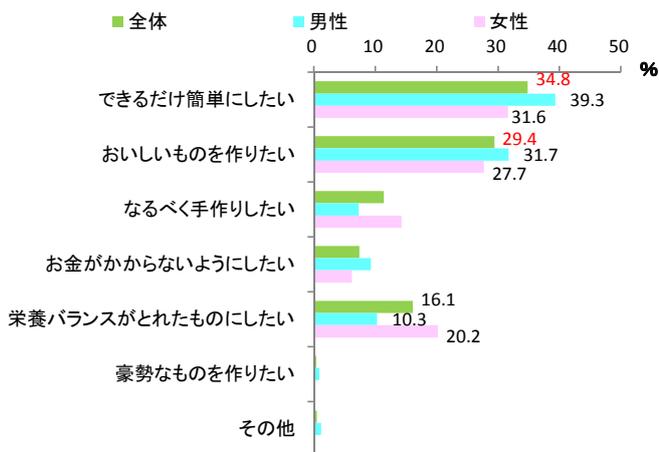


図14 「調理すること」への考え方／調理技術向上のための取組（「基本的にしない」人以外）

調理することに対し、「できるだけ簡単にしたい」が34.8%で最多。調理技術向上のため、「料理本、インターネットなどを参考にする」が50.8%で最多。家庭内での調理技術の継承（「家族から教えてもらう」）は、3割以下。

【「調理すること」への考え方】



【調理技術向上のための取組】

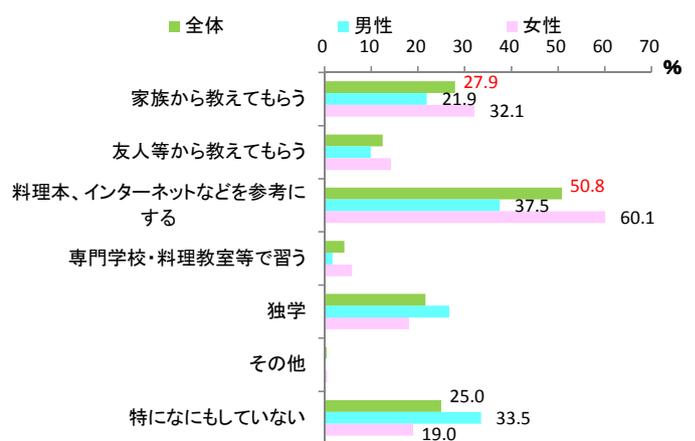
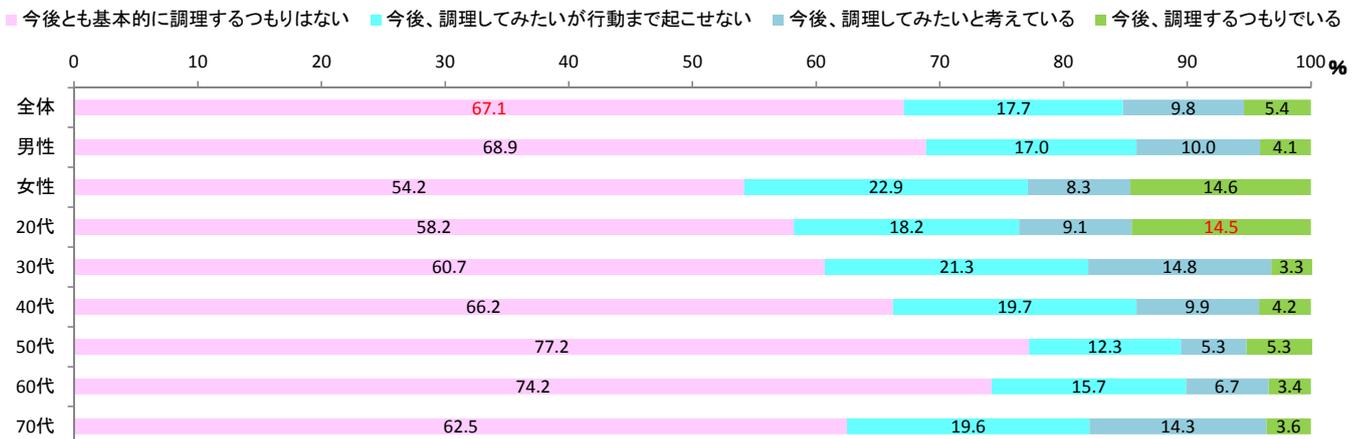


図15 今後の調理への意向（「基本的にしない」人）

基本的に調理をしない人は、「今後とも基本的に調理するつもりはない」が67.1%で半数以上。ただし、20代では、「今後、調理するつもりでいる」が14.5%で他の世代よりも多少前向きな結果。



この冊子に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。